

# おはよ



兵庫県障害児学校教職員組合（障教組）

神戸市中央区北長狭通 5 丁目2-10  
高教組会館内

N05 2020年6月8日

スクールバスの増車・増便で「密」の緩和、前進へ

でも先週末の突然の  
提案で困惑

## スクールバスの増車・増便をめぐる

通学時の「密」を解消して学習保障する施策として、「スクールバスの増車・増便」をはかるため、約三億六千万円の補正予算を県議会（6/9～）に提案すると、6月5日（金）夕刻に県教委が発表しました。期間は6月17日以降の1学期中。借り上げバス（大型14台、中型21台、小型74台分）料金と、介助員（添乗員）報酬として計上されています。県教委特別支援教育課が各校の校長にその件で事務連絡の文書を発送したのが6月2日。増車か増便、もしくは運行ダイヤ変更の三つの選択肢から検討することが書かれています。まだ学校によっては多くの教職員に知らされていないかもしれません。乗車率を下げた分散登校から早く一斉登校に切り替えるための措置でしょうが、あまりにも突然です。増車などを考えている大規模・過密状態の各学校から、課題がありすぎて混乱しているという声がさっそく組合に届いています。どう対応すればいいのでしょうか。現時点で考えられる問題点や検討のポイントをあげます。

### 乗降の問題

- ・今でさえ狭くて危険な乗降スペースは増車には対応できない。待機のための渋滞が予想され、近隣に迷惑。下校時は放課後デイの車との調整も難しい。
- ・子どものグループが分かるとますます教員の手が足りず、危険。

### 運行の問題

- ・増車の場合、バス停での停車の難しさやいつもと違うバスで子どもの混乱が心配。
- ・バス停での時間のずれが生じると、保護者の仕事への影響あり。

### 添乗の問題

- ・初めての人にいきなり子どもの対応は難しい。民間委託の添乗員が雇用されて、介助員と一緒に乗ることが偽装委託など法的な問題は生じないのか。
- ・介助員（会計年度任用職員）として新たに雇用された場合、今でも狭い介助員室がさらに密になる。また打ち合わせ等の負担増。教室介助に入れない。



これだけ問題がある重大事項なのに、なぜ突然降ってわいたように県はおろしてくるのでしょうか。Classi問題といい、何も現場の実態が分かっていないのに「導入ありき」で迫ってくるが続いています。現場の混乱や教職員の疲弊を顧みない県教委の姿勢には怒りを覚えます。そもそも登下校の密は解消されても教室の密は解消されない。「設置基準が特別支援学校だけない」という法的な問題の早期解決を目指さなければなりません。障教組は安心安全な学校再開を願う立場から、早急に問題点を集約して、要求書にまとめて県に問うつもりです。現場からの声をぜひ寄せてください。分会役員か高教組本部までご連絡を！

6月6日、第194回高教組中央委員会で採決された特別決議です。皆さんに訴えます。

### つながりと支えあいでコロナ禍を乗り越えよう



6月1日、およそ3か月ぶりに学校が再開しました。待ちに待った学校再開ですが、まだまだ安心してできない状況で、子どもたちも保護者も不安を抱えたままであろうと、心が痛みます。私たち教職員は、この休校期間、普段忙しさの中で考えることもあまりなかった「学校って何だろう」とあらためて自らに問いながら過ごしてきました。そして今、「子ども達に会える」という喜びと、でも命を育む学校での感染拡大はあってはならないという使命、「三密」を回避しがたい劣悪な教育環境という現実、さらには分散登校でもできる限りの学力や発達の保障をしてあげたいという願いのはざまに揺れています。そのうえ、自らも感染するかもしれないという恐怖と闘いながらの出勤なのです。それでもわたしたちは、できるかぎりの教育活動を展開したい、その熱い思いを抱えています。

そしてもっと心配しているのは、今後の社会です。コロナ禍は、格差の拡大など現代社会のひずみを炙り出しました。経済の落ち込みは新自由主義の「選択と集中」をより強め、弱者切り捨てや排除の論理が社会全体にはびこるのではないかと危惧されます。また人との接触・交流を避けるように言われ続けることで、豊かな人間関係の中でこそ自我を充実させ、人格を磨いていく子ども達の心の成長発達にゆがみが生じないかなど、心配は尽きません。

閉塞感に覆われている社会ですが、希望を見いだせる動きも広がってきました。多くのNPOが医療や介護の現場、生活が苦しくなった学生やシングルマザー・ファザー、社会的弱者の人たちに物資を提供しようとSNSで呼びかけると、多くのカンパが集まり、支援の輪が広がっています。つながっていくことが大切だとあらためて気づかせてくれます。タクシー会社の突然の解雇も労働組合の交渉で撤回させました。しんどい時代だからこそ、人のために力を尽くせる人間でありたい。それを、未来を生きる子ども達にも伝えたい。そして何より私たち教職員自身がそうありたい。

人間は弱く非力ですが、無力ではありません。組合は何よりもつながりと支えあいを大切に考えています。コロナ感染の終息を祈りながら、一人でも多くの方とつながって、子ども達のがびのびと学び、教職員が安心して働ける学校と社会づくりを共に進めていく決意です。

## あなたも障教組へ！



下記申し込み欄を切り取って分会役員に提出してください。Mail や LINE でも受け付けています。

高教組 HP もご参照ください。 <http://www.hyogo-kokyoso.com>

.....

障害児学校教職員組合に加入します

学校名：

名前：

職種：

連絡先：